

3月例会（第159回 24名参加） 3月13日

フリージャーナリストとして、テレビ・ラジオで活躍中の篤氏が、友人の宮川会員の紹介で来所し講演（40分間）。

特別放談 ジャーナリスト 篤 信彦氏

いくつかのテーマに分けて話します。

一つは今日株が1万9千円円台につけて日本経済が回復してきた。2万円が山になって更に行くのか、一段落するのか、そこが大きな境目かなという気がする。たぶんもうすぐアメリカが利上げをする。日米の金利差が広がって円高の可能性により株安の可能性も、それをみんながどう見るのか。今株価は上がっているが、投資の6割から7割は外国人、日本人が買って上がっているのではない。日本人はバブル崩壊を経験しているので非常に慎重になり、生活も健全である。そのために消費もなかなか増えない、工場も作られない。もう少し長い目で見ると、日本は人口が減っていく。2050年には9千万人を割る。今から3千万人減るといふこと。年間平均で60~70万人位減る計算になる。一県60~70万人の鳥取、島根県の人口が年々減少していく。いま日本の出生率1.4位がこのまま続くと2100年の人口は4100万人になる。とんでもなく小さい国になる。人口が減るといふことは、成長も輸出等がなければできないということになって、そういう先行きに対する不安もあると思っている。これからは日本は内需を国内と思わず、アジアが内需対象と思えばいい。こうしていかないと日本の経済はかつての様な元気は取り戻せないと思う。

もう一つに安倍首相の政局の問題。安倍さんが何で今こんなに強力なのか。安倍さんが前に辞めたときは、二度と立ち上がれないだろうと皆は見ている。その後福田、麻生内閣、選挙に負けて鳩山、菅、そして野田政権が出てきた。党内にベテラン議員がいなくなった。安倍さん自身は当選回数からいっても、相当上になっている。本人も、ああいう辞め方をしたので、もう一回チャンスが来るだろうと、臥薪嘗胆でその間4~5年いろんな政局を勉強してきた。佐藤内閣はなぜ長期政権に、田中内閣の人事は等々、戦後の長期政権と言われたところの人事の動かし方とか、党内の動かし方とかを学んできたことにある。

もう一つは外交で2010年に中国に追い抜かれ世界第2位経済大国から第3位に、アジアでも2位になり、人口減もあり日本人は自信を失い内向きになっているときに、安倍さんは外交に力を入れた。今まで一年間に約50回海外に行っている。海外の首脳とも約100回から120~130回の首脳会談を行っている。海外の首脳を知ることによって自分の位置づけがひけを取るものでないと、自信を付けてきたこともあると思われる。それとあまり知られたことでないが、自分は演説が下手だと思っているので、非常に練習をしている。海外に行く時は、英語を事前に相当練習をする等、隠れた努力もある。自信を持っている。今安倍さんに対抗できる政治家はどんどんいなくなった。今度、4月に地方選があり、9月に総裁選がある。そこで再び選ばれる。来年は参議院選挙がある。これに勝つとあと4年位はやるのではないかとみられている。彼は祖父の岸元首相の業績を何とか超えたいと思っている。だから安全保障に熱心、ただ声だけに言うと右寄りメディアにたたかれるので、大きな声では経済が一番と言おうが、経済のことはあまり成果が上がっていない。

黒田さんの金融緩和で株高になっているが、あまり成長戦略では成果が上がっていない。安保のことは口ではあまり言わないが、安保関係の法整備などはどんどん進んでいる。自民党は党是として憲法改正をだしている。日本の政治はもう一遍日本人が考えて、日本に遭ったものを造らなければならない、と言うのがずっと自民党の中にある。戦後の70年間の中で日本は憲法や民主主義等で発展してきたから国民の間に定着しているが、そういうことに対して、もう一遍戦後秩序を見直そうと言うのが、安倍さんの根底にあって岸さんの思想でもあった。日本が安全保障の面や憲法、教育の問題等すべてに亘ってアメリカによって引かれた路線、それをもう一遍自立しようと言うのが彼の根底にあるのではないのか。しかし日本は長い間の中で、これだけ経済が豊かになったということで、なかなか国民に理解されない。憲法だって今のままでいいじゃないかと言うのがかなり多い。そこを少しずつ変えていきたいと言うのが、彼の発想なんだろう。

そういう意味で言えば、これから経済がどうなるか、ということはあるが、彼が本当に力を入れていくのは、安保法制、安全保障、周辺事態等への自衛隊の派遣とか、相当従来の安保の考え方とは中身が変わってきている。公明党が少し危険だ、右に偏りすぎていると一生懸命抑えているが、一年か、一年半位掛ったところで、そういうものが出来上がっていくのではないのか。それが安倍さんの自分の政治使命だと言う風に考えているのではないかと言う感じがする。しかしながら政治は一寸先は闇と言って何が起るかかわからない。経済についても景気は上がってきているが決してそんなに良い訳はでない。株価も上がっているが今年は多分マイナス成長、思ったほどよくない。大企業はいいが中小企業の方まで景気回復の波がきている感じがしない。これがもっと続くようになると不満が出てくることはある。

もう一つはイスラム国の問題。この問題は、日本と関係ない中東とアラブの問題の話とみていた。この間、安倍さんが中東訪問して、ヨルダンに2億ドルの人道支援をすると表明したが、イスラエルを訪問した時、罪をしたものに償わせるのだという言い方をした。償わせるという言葉が欧米の新聞では、リベンジ（復讐）と訳された。それにイスラム国が非常に反応して、日本は十字軍の仲間に入ったのか。世界中のどこに居ても日本人も例外ではないということになってきた。日本は世界の自由連合の一番弱い所なので、海外などで日本人が人質事件などに遭えば、やはりあまり右寄り過ぎるとかえって危ない種を拾ってしまう可能性がある。海外に行っている企業の人達は、いつ何が起きるのかわからないので相当注意をする感じになっている。日本人も危なくて海外旅行に行けないという雰囲気は何となく出てきている。従来日本とアラブはいい関係にあった。石油ショックが起きたとき、日本はアラブより外交をやるのか、油より外交をやるのか、非常に問題になった。時の田中首相は油より外交をやった。それで石油メジャーが日本への供給を少なくすることをやり始めた。そのためアラブ諸国から直接石油を調達して買えるようにしたり、海外の石油開発をやった。これをアメリカ側から見ると、今までの秩序を壊すことになるために、アメリカの虎の尾を踏んだ内閣は短命に終わったという背景があった。そういうこともあって日本とアラブはいい関係にあった。アラブの人達も欧米と比べいい関係にあると見ていた。今回の件で十字軍の一員か、アメリカ有志連合の一員かと、イスラム国が言い出していることは、なんとなく気になるところかなという感じがする。

もう一つ、最近歴史認識が盛んに言われている。歴史認識とは戦後の秩序を見直す言う話だ。歴史認識は日本だけの問題ではない。例えば、イギリスのスコットランド独立問題、火種は残っている。世界はグローバル化しているが、一方でナショナリズムは燃え盛っている。スペイン、イタリア、ベルギーでも内部の裕福な地域が税金の使途を巡って独立の機運が盛り上がっている。

歴史認識は日中韓の問題だけでなく、世界中で問題が起こっていることを認識しておくことが大事だ。今イスラム国はイラクとシリアの間に国で一つの国を造ろうとしている。昔は中央アジアやアラブも砂漠の民で国境などなかった。それが100年ぐらい前にイギリスとフランスがサイクトピコ条約を裏側で結んで勝手に国境線を引いた。そこは油が出るから、アメリカも加わって中東をわがものにしようとした。イスラム国のやっていることは、非常に残酷で許すことが出来ない訳だが、背景にはこうしたことがある。もう一度100年前の時代に戻そうと言うのが、イスラム国の思想というか文化ということがある。だからわざわざイラクとシリアの間またがる国を、造られた国境は無視するという意味合いも持っている。彼らの将来像はサウジアラビアなども一つの国に、がイスラム国の発想だ。ところがアメリカは中東から軍隊を引き揚げてしまったため、新たに中東で戦争をするのを嫌がっている。アメリカは大戦後戦争ばかりしている。その結果戦争に嫌気をさしているという国内事情もある。戦争は陸軍が出て相手の首都を落として、そして降伏ということにならない限り終わらない。今アメリカは無人の戦車、無人の爆撃機で人の死ななような戦争をしようとしている。ミサイルももう2~3000発撃ち込んでいる。いくら空爆しても軍隊出していないから領土を確保できない。その軍隊はイラク軍の残党とクルド族が出ている。これまで痛めつけられてきた少数民族のクルド族はある程度戦果を挙げてくると、そのうちクルドの共和国を造ろうという動きが出てくる可能性がある。その時トルコ、イラク、イランがどう対応するのか非常に問題である。

日本は2010年に中国に抜かれてなんとなく自信を喪失、そして失われた20年もあって、これから日本はどうしたらよいか、日本人全体がどうやって世界の中で生きていったらよいか、ということが問われている。1960年代から95年位までは経済大国ということが日本のアイデンティティーだった。しかし人口がどんどん減っていくことになれば、日本の経済大国と言う地位は多分ありえないだろう。それでは政治大国になるかというところほとんど不可能、軍事大国も不可能、そうなる日本は世界の中で何を自分の存在感として求めていくか、ということが日本の今後の大きなテーマになると思う。ただ日本は素晴らしい国だし、地理的条件も四季に恵まれているし、世界から侵略される危険性も少ない、日本人は人間の資質としても、教育熱心だし、節約をし、努力をし、そして他人にも親切だと言うところもあるし、一方で技術とか文化と言う点でも環境技術、ナノテク、ハイテク、医療衛生技術とか強くなってきている。なんといっても美意識とか、こういうものも世界で比べたら圧倒的に高い。日本人の底力はものすごくある感じがする。アメリカもベトナム戦争に負けてそれから失われた20年があった。1970年80年代ヨーロッパも老大国などと言われ、失われた20年があった。ところがアメリカは90年代の後半からインターネット、資源開発、バイオなど新しい産業を造ることによって、再び世界経済の覇権を握り始めてきた感じがする。ヨーロッパはEUを造り、人と物と金の移動が自由になった。

日本は60年代から90年代当時は、アメリカやヨーロッパの衰退、韓国、中国はまだ出てこないのが日本の独り舞台だった。こういう状況でバブルは崩壊したが、日本はまた元に戻れると思っていたが一向に改善しなかった。95年位になって世界の構造が変化したのではないかと気が付き始め、その頃から新しい企業経営とかビジネスをやり始めたところはどうもうまくいっていない。そうでない所は次々と倒れていったのが実情でないかと思う。バブル崩壊寸前の1990年は世界の株式の時価総額のベスト20のうち14社が日本企業だったが、これがほとんどなくなっている。今後日本はどこに期待をかけるのか。今見ていると大企業よりも中堅中小企業の中に面白い企業が沢山あると感じる。そういうところがこれからの日本の中心になっていくと思う。

ソニーだってホンダだって戦後15~6人からスタートした。そういう点でいうと、今の大学生は大企業に入りたがるが、20年もすれば合併しちゃうとか、経営が行き詰るとか、いっぱい起きてきている。銀行がその典型だと思う。これからは中堅中小企業の中で、世界のシェア40%、50%持っているところは相当出ている。しかも41~2歳以下の人達で新しいベンチャー、戦後のソニー、ホンダみたいなものを作るところが増えている。最近、学生もだんだん判ってきて、そういうところを探そうという機運が盛り上がっている。そういうことになると、日本ももう一つ安心してやっていけるんだという感じがする。人物的にも、日本人の資質としても良いものが沢山あると言ったが、今の日本経済の強みとしては、クールジャパンとか、農業とか、農業は自給率が低いと言われているが、生産額で言えば、ドイツ、フランスと変わらない世界第3~4位にある。日本は人口は減ってきているが、文化とか、技術とか、歴史伝統とか考えると、世界に対してものすごく存在感を示すことが出来るのではないかという感じがする。

これからの生き方の中で大事なことは、友人をたくさんつくることではないかと思う。できたら友人を50人位つくってくださいと言っている。そういうことをしていれば、リタイア後等も楽しい人生を送れるのではないかと思う。「親友」という言葉があるが、別の漢字で「誠友」「信友」「深友」「心友」「震友」「新友」になる。これらの友を本当に親しい友達にしていくのが、これからの大事なことと思う。私は震災後三陸を2日間かけて通して見たが、どこが物凄く活発か、そうでないか、よく見えた。活発にやっているところは、姉妹都市たくさん持っているとか、そこに住んでる人達が友達をいっぱい持っているとか、そういうところにはボランティアが集まる。そういうことがない所は、政府に頼ることになる。地域も、企業も、個人もそれぞれ友人をたくさん持つということが人間を豊かにしていくのではと思う。

サラリーマン人生というのは、友人と言うと損得、技術、担保、お金、こういうつながりだけで友人関係を造っているけれども、5~10年すれば切れてしまう。そうでなくて、お互いのコミュニティの精神を持っていたり、あるいは奉仕の精神を持っていたり、人間の品性を持っていたり、こういうものを持っていると、長い友人の付き合いができるのではないかと思う。皆さんはこういう会を大事にして楽しい人生を送っていただきたい。